

**研究者総覧：渡辺美樹 (Miki, WATANABE)**

氏名	渡辺 美樹 (Miki, WATANABE)
職名	准教授
所属講座	日本言語文化専攻比較日本文化学講座
学位（専攻分野）	修士（文学）・名古屋大学
メールアドレス	<a href="mailto:miki@lang.nagoya-u.ac.jp">miki@lang.nagoya-u.ac.jp</a>
個人のホームページ	<a href="http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/~miki/">http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/~miki/</a>
研究分野	児童文学
	子どものイメージ
	英文学
現在の研究テーマ	サラ・フィールドディング
所属学会	日本イギリス児童文学
	日本児童文学
	日本英文学
主要著書・論文	「『天狗風』——桜の森と神隠し」『言語文化研究叢書』第7号（日本語の魅力）、名古屋大学国際言語文化研究科、2008年.
	「ファンタジーの古典『指輪物語』を読み直す——王権と道化について」『言語文化研究叢書』第4号（古典を読み直す）、名古屋大学国際言語文化研究科、2005年.
	「「エロスとプシケー」から「美女と野獣」へ」『日本児童文学論叢』第8号、2003年.
	「児童文学と性」『児童文学論叢』6号、2000年.
	「現代の牧歌——『トムは真夜中の庭で』試論」『イギリス小説ノート』第7号、1989年.
自己紹介文	<p>大学進学後初めて大学の図書館に行ってみて驚いたことは、『ナルニヤ国物語』や『指輪物語』、さらには『ゲド戦記』までが、どういうわけか純文学と一緒に棚に並んでいたことでした。日本では現代文学というより児童文学の範疇に入れられているこのような物語類は、公立図書館では児童書コーナーにしかありませんでした。そういう扱いが新鮮で、大学生になってから所謂純文学よりも児童文学に慣れ親しむようになりました。大学に入るまでは、背伸び</p>



HP 扉絵

	<p>して純文学に手を伸ばしこそすれ、児童書と目されるようなものに目をくれることもなく過ごしていましたので、この読書傾向の変化は私にとっては一種の天変地異でした。さまざまなファンタジー作品を漁っていく中に、特にハイ・ティーンの年頃の女の子—子どもと大人の間中に位置する“乙女”の描かれ方が時代と共にどのように変化してきているのかという点に興味をもつようになりました。日がな一日本を読んで暮らせると思い込んで大学に残りましたが、予想に反して読むための時間が思うように取れません。幾つになっても子ども時代同様に時間を有効活用するかが大きな課題となっています。</p>
<p>受験生へのメッセージ</p>	<p>新しい地平を目指して頑張りましょう。人間が作り出した世界の全てを文化ということができます。世界の広い範囲に適用できるような答え方を思索する必要があるでしょう。とはいえ、まず最初に、準拠枠を明確にして分析対象を絞り込むことが必要になります。分析対象の特徴を活かせる準拠枠に基づいて自分の考えを展開できるようになるためには一にも二にも訓練です。ひたすら読み、読んで理解したことを元にして試行錯誤しながら考えを練り上げていくしか方法はありません。第一歩はとにかく無駄足になりやすいのですが、時を経てその無駄足が結実した後ようやく文化研究が始まるのです。研究方法を学ぶのに時間がかかるだけでなく、文化研究は懐が広くないとお話になりませんので、無駄になるかもしれないことを自分の引き出しに沢山入れておく必要があるのです。文化の研究者は博覧強記を求められるのです。このように気の遠くなるほど距離のある道を一步一步歩んでいけるようになりましょう。</p>



授業で用いたイメージ画